



酒を飲んでいた。

台所から女房が「はげあくのか、しやあっこかどっち？」

「はあ？」もう一度女房が「かげか、さっこかどっち？」

「何！」とうとう、大きな声で女房がゆっくりと

「油あげを焼くのか、冷奴ですか！」と。私は答える「両方とも ↑！」と。

それ程の難聴ではないと思っているが、女房に言わせると

「相当ひどいですよ！外へ行く時はいつも補聴器を付けていないと人様が迷惑しますよ！」と言われている。

会議の時は、距離もあり確かに補聴器がないと聞きづらいし、人様に迷惑が掛かる。

しかし、通常の会話では近距離でもあり、最初静かに聞いていると、何の話をしているのかがおおよそ分かり、相槌や会話に困ることはそんなにない。

家庭でも、女房が穏やかに喋っている時は、聞こえた単語で約、話の内容が分かり

「ふん、ふん！それはお得な買い物ができてよかったね！」と聞こえたふりで大丈夫。

だが、日常会話であっても、私への突然の質問というか、私が女房に何か答えなければならぬ会話があった時、何の話か推定がつかず「ええ！」と聞き返すことが度々である。

「あんたの話は、声が高いのか、早口なのか、入歯の所為か聞きづらい。他のひとの話はしっかり聞こえるのに！」と開き直る。

逆に、しっかり聞こえてはいるが、都合の悪い話の時は、聞こえてないふりができるのも利点である。

そもそも、補聴器を付ければ良いのであるが、耳の穴に付けることが鬱陶しいことと、付けた時会話以外の音、食器洗いの「ガッチャ！ガーン！ジャー！」という音や、自分の咀嚼音、レンジの「ジーン！」トイレの「ゴォー！」等など、世の中が騒々しく感ずるのである。

「テレビの音小さくして！」女房が叫ぶ！

面倒くさくなり、音量をゼロにする。

「六角精児：飲み鉄・紀州の旅」を見る。テロップが出て内容がほぼ分かる。

ディーゼルの軽やか音が聞こえる。電車の中で酒をうまそうに飲み感想を述べる。

「うーん、さすが年代物の梅酒、これはまるやかでうまい！」しっかり聞こえるのである。

「吉田類：酒場放浪記」「地元高知の酔鯨は懐かしい！クジラのベーコンも酒に合うね。美味しい！」チャンと聞こえるのである。

これに、味をしめ、テレビはいつも音量ゼロで見ている。

ニュース番組では、トランプ大統領がホワイトハウスで両手を広げ、怒鳴っている。音量ゼロの状態でも、赤鬼が日本語でまくし立てている声が、私には聞こえるのだが、何を言っているのかは、サッパリ分からない。

「プロ野球やサッカーの観衆」の雄叫びも、「世界遺産」「ギョギョとサカナ★スター」の解説も聞こえ、何と「クラシック演奏」を聞きながら眠ってしまうなど、音量ゼロにはまっている。

今のお耳は私にとって「静かで心休まる」最良の状態であるが、女房をはじめ皆様には時々、迷惑をお掛けするかも。